

第6課 日本語で手紙を書く／手紙の形式

十一月も中旬を過ぎて、間もなく本格的な冬の寒さが訪れる頃だが、今日は、珍しくからりと晴れ上がった青空で、芝生の上は、友達同士話をしている学生、教科書や参考書を読んでいる学生、新聞を読みながら忙しく昼御飯を食べている学生、何もしないで寝転んでいる学生などで一杯だ。マイヤーさんが難しい顔をして何かを見ているところへ、ミラーさんがやってきた。

A：あら、それ、日本語の手紙？ 本当に読んでるの？ 眺めているだけでしょ。

B：そういうつもりじゃないんだけど、結果としてはそうなるね。手書きって読みにくい。こんなにきれいに書いてあるのによく読めないんで、イライラしちゃうよ。

A：慣れてないから、仕方ないわ。どういう手紙なの。仕事関係の手紙じゃなさそうね。

B：うん。ペンフレンドからなんだけどね。

A：ペンフレンド？ 高校生みたいなことやってるのね。もう随分長く文通しているの？

B：まだ、そんなにたってないな。半年ぐらいかな、日本のいろんなこと書いてきてくれるし、なかなか面白いよ。いい勉強にもなるし。ミラーさんもやってみない。

A：私は、遠慮するわ。忙しくて文通どころじゃないもん。

B：勉強しか頭にないみたいだね。

A：そういうわけじゃないけどね。

A：このペンフレンドってどんな人。字のきれいな人ね。

B：ええとね、アメリカ文学専攻の女子大の三年生。趣味が音楽鑑賞なんで……

A：趣味が音楽鑑賞。高枚生みたいな言い方。普通に「音楽が好き」って言えばいいじゃない。

B：そうかな。構わないんじゃない？

A：構う。何でも漢字を並べればいいというのは嫌い。

B：分かった。もういいよ。[A:それで。]それでね、彼女が、今、日本ではやっている歌のテープやCDを送ってくれるんで、お返しに今こっちで人気のある音楽のCDや、新しい小説を送って上げたりしてるの。

A：でも、どうやって知り合ったの、その人と。

B：たまたま日本語の雑誌のね、文通欄を見てたら、アメリカ文学に興味があるなんてあったからね、手紙を出してみたら、すぐ返事が来て、で、文通を始めたんだよ。

A：ああ、そう。私、これから実験。こんないい天気なのに、もったいないわ。

平成〇年一月二十三日

段々寒くなってきましたが、如何お過ごしでしょうか。私は相変わらず大学寮を忙しく往復する毎日を過ごしております。(というように書くのが、正式な手紙の書き方だということは、今、勉強しているところ。)

この間送ってくれたテープ、何回聞いたかわからないくらい聞きました。歌は少し聞き取りにくくて難しいけど(日本語に限らず、何語でも)、それでも、知らぬ間に覚えてしまった所もあります。ただし、歌詞を確かめたら、大分違っていましたが。(歌詞が付いているというのは、いいですね。アメリカのレコード会社も全部そうすればいいのに。)このところ、「春の河辺で」がシャワーを浴びる時の歌です。自分では、かなりうまくなったと思っています。そのうちに、カラオケでやってみたいものです。

ところで、この間の件ですが、私の友達に話したところ、早速、オヘアさんという映画気違いの二年生(とても真面目でいい人)が、是非紹介してくれと言ってきました。ロバート・デニーロが大好きだと言う江戸さんのお友達と話が合うと思います。彼の住所を同封しますので、お友達に、お渡してください。オヘアさんの人物、人柄については、私が保証します。(デニーロに似てるか否かは保証できませんが。)

それでは、今日は、この辺で失礼します。お元気で。お手紙楽しみにしています。

敬具

ウォルター・マイヤー

追伸 別便で最近出たばかりの小説、送りました。著者は、黒人の女性で、将来はアメリカ文学を代表する作家になるだろうと言われています。